

—関係部署—

循環器内科
心臓血管外科
7階山側病棟、ICU・CCU
臨床工学科
地域医療連携室
薬剤科
リハビリテーションセンター

—概要—

2002年に開設となった心臓センターは今年度で20年を迎え、名称を心臓・血管センターとした。開設当初より循環器内科、心臓血管外科の両科によってこれを構成し、当院における循環器系疾患の診療にあたってきた。特に併設の泉州救命救急センターに搬送される急性冠症候群(不安定狭心症、急性心筋梗塞)や急性大動脈症候群(大動脈解離、大動脈瘤破裂)、重症心不全や重症不整脈などに対しては、当直医を常駐し24時間体制で対応している。昨今ではそれら両診療科に加え、看護師(病棟・ICU看護師、慢性心不全看護認定看護師)、臨床工学技士、検査技師、リハビリ、薬剤師、MSWなどの多職種が参加、連携して、初診から退院、あるいは退院後の外来フォローに至るまで、包括的かつ合理的にケアに当たっている。また、高齢心不全患者に繰り返しACPを行い、循環器疾患の複雑かつ多様な治療選択ができるよう医療チームで介入している。

2020年からは泉佐野泉南医師会とともに「泉州多職種地域連携プロジェクト」を立ち上げ、「心不全手帳」や「心不全冊子」を作成し、地域全体で心不全患者家族を支援していく体制を構築している。

—実績—

循環器内科の臨床実績(2021/1/1～12/31)は心臓カテーテル検査739件、冠動脈カテーテル治療348件、ペースメーカー植え込み65件、カテーテルアブレーション66件、下肢動脈カテーテル治療40件などであり、いずれの治療件数も今年度増加し、特に心房細動に対するカテーテルアブレーションや下肢の閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療は新メンバーの加入もあって大きく増加した。心臓血管外科は今年度162件の手術をおこない、内訳は冠動脈疾患20例、弁膜症58例、胸部大動脈瘤26例、腹部大動脈瘤28例、末梢血管19例などであった。なかでも今年度は右小開胸による僧帽弁形成術(MICS手術)を開始し、すでに9例におこなった。今年度も循環器内科、心臓血管外科とも泉州地域の救急患者を積極的に受け入れ、りんくうICU

/CCUの年間患者延べ3,090例のうち、86%にあたる延べ2,657例が心臓・血管センター関連の患者であった。

また慢性心不全看護認定看護師を中心として、院内他科に入院中の潜在的な心不全患者に対する心不全ラウンドや、年間約200件の心不全外来、家族も交えた退院後支援を視野に行う年間約100件の退院前カンファレンスなどを実施している。

—今年度の成果と反省点—

上述した通り、循環器内科は心臓カテーテル検査及び治療件数やカテーテルアブレーション件数の大幅増が最大の成果である。また心臓血管外科はMICS手術の導入による弁膜症治療の進展が今年度の大きな成果である。院内多職種が会しての、心臓・血管センター合同カンファレンスを毎週水曜日朝に開催し、問題症例を中心に議論をおこなっており、今年度も引き続き行ってきた。また心不全地域連携プロジェクトでは、第2回の全体集会をWeb配信中心ながら実施した。

—来年度への抱負—

両診療科においては引き続き活発な診療実績を挙げていくとともに、冠動脈や心不全、大動脈疾患の救急搬送に対してこれまで以上に積極的に取り組んでいく。また院内多職種連携をさらに強化し、前方後方支援を含めた循環器疾患の治療体系をより強固に構築していきたい。院外においては、心不全多職種連携を、年数回の研究会をもとにより深めていきたい。